

小 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究仮説	1
III	研究の内容	2
IV	研究の成果	16
V	今後の課題	16

「一人一人の感性を大切にしたい図画工作の指導」

I 主題設定の理由

1 新しい学習指導要領に新たに加えられた「感性を働かせる」ことの重要性

新しい学習指導要領では、図画工作科の目標に「感性を働かせながら」という文言が新たに加えられた。感性とは様々な対象や事象を感じ取る心の働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものとされている。児童は対象と向き合った際に心を動かし、自分の諸感覚を働かせながら、様々な活動を通して形や色、イメージなどを捉えていく。児童はこのように、自分の感じ方や表現への思いなどの感性を働かせることを手掛かりにして、発想、構想し、創造的な技能を活用しながら主体的に表現する。

そのような活動の中で、児童はよさや美しさなどを感じ取り、友人や教師との関わりやつくりだす喜びを味わうことで、図画工作科の目標に迫っていくと考える。

2 「一人一人の感性を大切にしたい図画工作科の指導」と生きる力

このことから、「児童一人一人の感性を大切にしたい」ところが、これからの図画工作科の最も重要なポイントであると考え、研究主題を「一人一人の感性を大切にしたい図画工作の指導」とした。児童が感性を働かせている姿や場面についての理解を深めるとともに、児童一人一人の感性を大切にしたい授業を行うための指導の在り方について、新しい学習指導要領に新たに示された事項と照らし合わせて研究を行うこととした。

II 研究仮説

1 仮説

『児童が自分の感覚や活動を通して造形的な特徴を捉えることや、それを基に自分なりのイメージや表現の思いをもつことを重視して授業改善を行えば、一人一人の感性を大切にしたい図画工作科の指導になるであろう。』

2 仮説設定の理由

新しい学習指導要領の図画工作では、新たに指導すべき事項として〔共通事項〕が設けられた。これは表現及び鑑賞の活動の中で共通して必要となる資質や能力として示されている。私たちは、この〔共通事項〕が、児童が図画工作科において感性を働かせている姿に深く関連していると考えた。〔共通事項〕に示されている内容は次の2点である。

(ア) 自分の感覚や活動を通して形や色などの造形的な特徴を捉えること

(イ) (ア)を基に自分のイメージをもつこと

児童は本来、対象の形や色、大きさや質感、他のものや空間との関係などの様々な特徴を、自分もっている感覚を駆使して捉えようとする資質や能力を備えている。また、そのようにして捉えた特徴は、児童の感覚や活動と一体となり、自分なりのイメージへとつながっていく。教師がそのような資質や能力を引き出し、高める授業改善を行えば、児童一人一人が感性を十分に働かせることができると考え、この仮説を設定した。

Ⅲ 研究の内容

私たちは、各学校における「感性を大切にした図画工作の指導」の充実・改善に資するよう、指導の計画、実際の授業、評価などの指導場面における、具体的な方法や留意点について研究を行った。

児童の感性を大切にした指導の充実・改善には、まず、児童が感性を働かせている姿や場面について理解を深めることが重要となる。

そこで仮説に基づき、児童が感性を働かせている姿を〔共通事項〕の（ア）（イ）を基に以下の【ア】【イ】と設定し、その視点から日頃の実践について検討を行った。

【ア】自分の感覚や活動を通して、形や色などの造形的な特徴を捉えること

【イ】【ア】を基にイメージや表現の思いなど、自分なりの意味や価値をもつこと

新たな題材の開発や新しい素材に目を向けるだけではなく、日頃の実践を〔共通事項〕を手掛かりにして見直すことが有効であると考えたのである。どの児童も、形や色を自分の感覚で捉えることができるような提示方法になっていたか、また、児童が自分の思いを大切にしながら、プロセスを作っていけるような学習展開や場の設定になっていたかなど、実際の授業を基に議論を重ねた。

その結果、「感性を大切にした図画工作の指導」であるための「指導の視点①～⑥」と「指導内容及び留意点の例（表2）」を抽出することができた。

また、図画工作科の学習活動で児童が感性を働かせている場面と、児童が感性を働かせるようにするための指導の手立ての関連性を捉え、検証することが必要であると考え、児童の姿を時系列で確認するための「時系列確認表（表3）」を作成し、活用しながら指導を検証し授業改善を進めることとした。

「感性を大切にした図画工作の指導」を行うための六つの視点

① 意欲	② 感覚	③ 空間	④ プロセス	⑤ 気付き	⑥ 技能
児童の表現への意欲を引き出し、高め、維持する。	児童の諸感覚を意識させ、十分に働かせる。	児童の活動や行為の動線を意識する。	児童が十分に発想力を働かせるよう、一人一人の活動のプロセスに合わせた個に応じた指導を行う。	児童の様々な気付きや確認を大切にする。	児童の表現の思いを実現するための技能の指導を重視する。

1 研究の方法

以下の二つの方法で仮説と手立てについて検証を行う。

- (1) 検証授業を行う。その際、指導案に「一人一人の感性を大切にした図画工作の指導」を行うための六つの視点と手立てを具体的に示す。
- (2) 検証授業後、題材を通して児童が感性を働かせている姿と手立ての関連性をより具体的に捉えるために、「時系列確認表」を用いて検証する（表3及び検証授業報告参照）。

2 研究の構想図

図1 研究の全体図

「生きる力」の育成

図画工作科の目標：表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

図画工作科における「確かな学力」の育成

造形への関心・意欲・態度

発想や構想の能力

創造的な技能

鑑賞の能力

研究主題

一人一人の感性を大切にした図画工作の指導

研究の仮説

児童が自分の感覚や活動を通して造形的な特徴を捉えることや、それを基に自分なりのイメージや表現の思いをもつことを重視して授業改善を行えば、一人一人の感性を大切にした図画工作科の指導になるであろう。

図画工作科の学習活動において一人一人が感性を働かせている姿を、〔共通事項〕を基にして以下のように考える。

【ア】自分の感覚や活動を通して、形や色などの造形的な特徴を捉えること

【ア】【イ】を基にイメージや表現の思いなど、自分なりの意味や価値をもつこと

したがって、【ア】【イ】が、授業において十分に行われることを重視する。

それが「感性を大切にする」ということである。

学習指導要領解説に示されている内容

研究員5人の実践及び検証授業を通しての指導の工夫や留意点

「感性を大切にした図画工作の指導」を行うための六つの指導の視点

① 意欲

② 感覚

③ 空間

④ プロセス

⑤ 気付き

⑥ 技能

検証授業後、題材を通して児童が感性を働かせている姿と手だての関連性をより具体的に捉えるために、「時系列確認表」を作成し検証する。

表2 「一人一人の感性を大切にした図工の指導」を行うための六つの視点と内容及び留意点

※ここに示す指導内容及び留意点は一例である。

① 意欲	② 感覚	③ 空間	④ プロセス	⑤ 気付き	⑥ 技能
児童は「能動的な行為」を通して形や色、イメージを捉える。感性を十分に働かせるためには、意欲を引き出すこと、高めること、維持することが不可欠である。	視覚だけでなく、触覚、聴覚、といった体全体の感覚や心情や意識を刺激し、揺さぶること（見方を変えるなど）で、一人一人の感覚や感じ方を引き出す。	児童の活動や行為の動線を意識した場の設定により、一人一人の感覚や表現の思いを存分に広げ、発揮させる。	児童が自分の表現を追求する活動において、児童が十分に発想力を働かせるようにするには、一人一人の活動のプロセスに合わせた個に応じた指導を行うことが不可欠である。	児童一人一人の気付きや確認を促して、感じたこと、考えたこと、自分のイメージ、表現の思いを膨らませたり、深めたりする。	児童の表現の思いや意図を活動や作品として具象化し実現するためには、技能の指導が不可欠である。



色や材料、方法を児童が集めたり選んだりできるようにする。	諸感覚を十分に働かせることができる適切で価値ある材料や用具を設定する。	十分に材料と関わることのできる安全な場所を準備し、活動範囲に配慮する。	児童が、行きつ戻りつしながら表現することができ、プロセスを大切にできる。	活動の言語化やスケッチ、教師の声かけなどにより、自分の感じ方、イメージを意識させる。	活動のよりどころとなる技術や技法の提示を工夫する。
材料を追加するなどして、意欲を高め、維持する。	対象に対する新たな見方や感じ方の視点を与える。	素材、材料の量などを厳選する。	活動の着地点を想定し、自分で決められるように設定する。	見方や感じ方を変えて気付けるような発問をする。	児童の経験を考慮して用具を設定する。
活動や行為に対して具体的・共感的に理解する。	心情、空間的・物語的要素を大切に理解する。	思い付いたことをすぐに試せる用具や材料などの環境設定。	対象を感じたり、材料や用具を活用したりできる十分な時間を確保する。	他者との関わりを通しての感覚やイメージの多様性の気付きを大切に理解する。	用具に十分に慣れさせる時間を確保する。
児童の興味あるもの、こと、場所などを取り入れる。	各学年の発達の段階の特性を生かす。	教師、友達、作品といった要素の関係を配慮した学習環境の設定を行う。	児童が自分の活動について言語化する場などを工夫し、一人一人の表現への思いを把握する。	児童の気付きを促すため、児童の行為を価値付ける共感的な声かけを行う。	技術や技法の指導については、6年間のカリキュラムを通して計画的に行う。

表3 時系列確認表

検証授業後、題材を通して児童が感性を働かせている姿と手立ての関連性をより具体的に捉え検証するために作成する。

児童の姿

児童が感性を働かせていると思われる場面（形や色などの造形的な特徴を捉える、イメージや表現の思いなど自分なりの意味や価値をもつ）での児童の姿を具体的に示す。

学習の時間を示す

教師の手だて

児童の姿に対して、六つの視点からどのような手だてを行ったか、結果どうであったかを示し、検証する。

3 検証授業

検証授業 1

対 象 第4学年 30名 授業者 板橋区立板橋第四小学校 主任教諭 平本 かおり

1 題材名 フシギミラーランド (A表現 (2)・B鑑賞 (1))

2 指導観

(1) 題材観

この題材は、鏡のように「映る」という特徴をもつ厚紙のミラーシートを使用して、立体に表す題材である。ミラーシートに映る空間が、まるで不思議な世界のように見えることから、題材名を「フシギミラーランド」とした。児童はミラーシートの「映る」という特徴を、自らの行為を通して感じ取り確認する。何をどのように映すと面白くなるかをいろいろな材料を使いながら試し判断するとともに、表現しながら思い付いたことや考えたことを生かして製作していく。そのような活動の中で、児童は自分なりに材料や作品に価値付けや意味付けを行い、作品のイメージを広げていく。このような姿は題材の初期だけではなく、製作の過程でも見られる。研究主題の「一人一人の感性を大切にする」ことを考えた時、児童が、造形的な特徴を自分自身の体験を通して感じ取り、主体的にイメージをふくらませていく活動が展開することを目指した。

(2) 「一人一人の感性を大切にしたい図画工作の指導」をつくるための六つの視点

仮説に迫るために、本題材では次の具体的な手だてを用意する。

ア 児童の「①意欲」を引き出す展開

第1次では、各班でミラーシートの立体的な作品を共同で製作し、第2次以降は個人で製作する展開とした。最初に友人と一緒に遊びながら試し発見していくことで、製作意欲をもち、発見や気づきを促すことにつながるようにする。

イ 一人一人の「②感覚」を働かせる素材

「映る」という特徴のある紙素材であるため、切断や接着が容易で、児童が発想し構想したことを、瞬時に形にすることができる。曲げたり、つなげたりすることで、平面的にも立体的にも自由に好きな形をつくることのできることから、児童は主体的に材料と関わりながら対象の形や色、作品へのイメージなどを捉えていくことができる。

ウ 十分に材料と関わる「③空間」の工夫

安全性に配慮した活動範囲、材料の質や量の厳選、学び合いを意識した学習動線の設定など、児童が一人一人の思いに合わせて活動できる学習環境を工夫する。

エ 一人一人の発想力を働かせる「④プロセス」の工夫

児童一人一人の思いや意図、表現の特性などが生かせるよう、まず共同製作を行ってから個人製作を行うこととした。共同で製作することにより、友人と意見交換しながら立体によってつくられる空間の中での面白さや表現の方法を見付けるとともに、立体にしていく過程を誰もが理解できるようにした。

オ 児童の「⑤気づき」を促す

活動を通して感じたことや身に付けた技能によって膨らんだ表現への思いを、言葉やスケッチでワークシートに記録させ、児童が自分の感性で捉えたものを意識化させる。

教師が、児童の気付きを促す発問を工夫するとともに、このワークシートを活用し、児童同士の言語活動を充実させ、友人のいろいろな感じ方やイメージの多様性に気付かせる。

カ「⑥技能」

この題材では、児童が発想・構想したことに基づいて自分らしく表現を工夫できるよう、カッターやのりではなく、はさみやセロハンテープなど簡単に扱うことのできる用具を選んだ。

3 題材の目標

ミラーシートの「映る」という特徴を生かし、いろいろな材料を使いながら試し、判断するとともに、表現しながら思いついたことや考えたことを生かしたり、友人の作品のよさを自分の製作に生かしたりして、楽しみながら立体にあらわす。

4 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①フシギミラーランドをつくることに興味をもち、自分の思いで取り組もうとしている。 ②自分たちの作品のよさや面白さを自分の思いで味わおうとしている。	感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けたり、形や色などを考えたりしている。	自分の表したいことに合わせて、材料や用具を使うとともに、いろいろな方法を試みるなど工夫して表している。	感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方や材料による感じの違いなどを捉え、よさや面白さを感じ取っている。
学習した活動の具体的な評価規準	①フシギミラーランドをつくることに興味をもち、自分の思いで取り組もうとしている。 ②自分たちの作品のよさや面白さを自分の思いで味わおうとしている。	感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けたり、形や色などを考えたりしている。	自分の表したいことに合わせて、材料や用具を使うとともに、いろいろな方法を試みるなど工夫して表している。	感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方や材料による感じの違いなどを捉え、よさや面白さを感じ取っている。

5 題材の指導計画（4時間扱い）

		学習活動・学習内容	評価規準
第1次	1時間	【目標】ミラーシートの鏡の効果を知り、友人同士試しながら、その効果を楽しんだり、やりたいことを思い付いたりする。 ・ミラーシートが鏡のように映すことを知る。 ・3枚のミラーシートを組み合わせてできる立体を、班で協力して一つつくる。 ・できた立体でいろいろ試してみる。 ・各班で試した面白いことを発表して共有し合う。	ア①
第2次	1時間	【目標】いろいろ試して体感した鏡の効果を生かしながら、自分のイメージする「フシギミラーランド」に、表し方を工夫しながらつくる。 ・自分の製作に入りたい人から、ミラーシートを組み合わせてつくり始める。 ・材料を選んで空間をつくり始める。 ・製作の途中で、友人のつくっているものを見合う。 ・自分や友人のアイデアについて発表する。	イ・ウ
第3次	1時間	【目標】自分の製作を振り返って、よさやみどころについて作品カードに書いたり、友人の作品を見てお互いによさを伝え合ったりする。 ・どんなミラーランドになったのかを作品カードに書き、自分の作品について振り返る。 ・自由に見合う。 ・友人の作品について、よさを紹介し合う。	ア②・エ

6 時系列確認表 (形や色を捉えたり、自分のイメージをもつという視点に立って)

児童の姿

普段以上に紙を組み合わせて立体にすることに自分から進んで取り組めていた。

(検証結果)



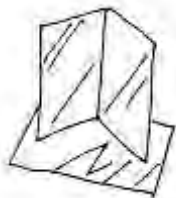
ミラーシートを班に3枚ずつ配り、ミラーシートの組み合わせ方の基本形を作りながら各班で材料に親しんだ。製作しながら、基本の形から発展し、いろいろなパターンを考えられる児童もいた。この指導により、ミラーシートを立体的に組む方法を全員が理解し、製作意欲が高まった。

反面、班でつくるものに自分のアイデアを反映しづらく、我慢を強いた部分もあった。

(検証結果)



ミラーシートを手で曲げながら、変化する様子を観察して楽しんでいた。



基本形

各班にミラーシートを渡すと・・・



曲げたりして
写し合っている。

しばらくの間、写る効果をいろいろと試して遊び合っている。

教師の手だて

発達の段階の考慮・技能面の選択

【⑥技能】

児童の実態に応じて、はさみを中心に活動できる内容にし、新たな用具は使用しないこととした。

ミラーシートをあらかじめ切って扱いやすい大きさにしておくことで、工作しやすくし、児童が立体にする技能に抵抗を感じないようにした。

手軽に素材の組合せ方を考えられるようにして、「写る」特徴を捉えることに重点をおいた。

出会わせ方の考慮【①意欲・②感覚・⑤気付き】

各班でミラーシートの立体を一つつくり、材料とふれあいながら試し、発見していくことを意図した。

友人と見合って気付きが広がったり、会話の中で自分のイメージがはっきりしたりする。

活動の着地点を想定する【④プロセス】

ミラーシートを曲げて、写るものの「感じ」が変わるのを楽しんだり、切ってカードにしたり、キラキラした感じを楽しみながら絵を描いたりすることが予想される。

その中で「写る」という特徴にしぼり、その特徴を生かして活動する展開を考えた。

時間設定を考える【④プロセス】

各班でミラーシートを組み合わせ、立体にしていく過程を大切に、いろいろ試せるよう時間を確保する。

一斉に個人の製作に入ることはせずに、それぞれのタイミングで、各自の製作に入るようにした。

は
じ
ま
る
前

児童の姿

第1次

- 班で協力して3枚のミラーシートを組み合わせてできる基本形の立体をつくる。
- 油性ペンを使って、一人一つずつ線などを描き加える。
- 思い付く材料を作品の空間の中に置いたり、付けたりする。



- 各班で試しながら発見したことを発表し、共有し合う。



第2次

- ミラーシートを組み合わせて個人作品の製作をはじめます。

- ・班でつくった方法から始める児童
- ・3面以上にしたり、組み合わせる向きを変えたり、形を切ったりする児童
- ・材料の組み合わせや付け方を考えている児童
- ・見え方の面白さを味わっている児童



教師の手だて

諸感覚を働かせる 【②感覚】

ミラーシートの「写る」という特徴を、材料の形を変化させながら、見たり触ったりして確認する。

他者とのかかわりでいろいろな価値に気付かせる 【⑤気付き】

教師の投げかけや、友人の活動を見て、自分もやってみることで気付く。

共感的な姿勢、安心できる雰囲気づくり 【①意欲】

児童が感じ取ったことや気付いたことに共感する言葉かけをしたり、自由に試することができる雰囲気をつくらせたりすることで、児童は自分の表現したいことに自信をもって進んでいく。

活動のふり返りをさせる 【⑤気付き】

各班でどんな面白いことを見つけたか、ふり返り発表し合うことで、同じ特徴や新しい気付きを全体で共有し合う。

諸感覚を働かせる 【②感覚】

個人の製作を進める中で、ミラーシートやその他の材料の特徴を捉え、イメージが広がり、具体的になっていく。



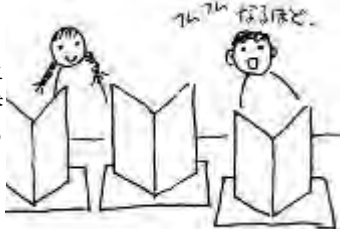
は
じ
ま
り

過
程
・
活
動

児童の姿

製作途中で友人のつくっているものを見合っている児童

班でつくったものを見て、参考にしている児童



友人と一緒に写り方を見て楽しんでいる児童

第3次

- どんなミラーランドを製作したのか、自分の作品についてふり返り、作品カードに書く。
- 友人の作品を自由に見合う。
- 友人の作品について、よさを紹介し合う。

ダイヤの形の太陽



天国の階段と地獄の階段



海が果てしなく続く感じ



教師の手だて

過程・活動

他者とのかかわりでいろいろな価値感に気付かせる。【⑤気付き】

友人や教師とのかかわりを通して、新しい見方や、気付かなかった特徴などに気付いたり、自分のイメージのヒントを得たりする。

共感的な姿勢、安心できる雰囲気を作る。【①意欲】

自分のイメージをより確かに、自信をもって広げ、深めていくことができる。

諸感覚を働かせる【②感覚】

友人のつくったものを見たり、手にとってみて、「写る」特徴を感じ取ったり、作品のイメージをつかんだりする。

活動内容をふり返らせる【⑤気付き】

- ・書くことを通して、ミラーシートの効果、特徴について意識し捉え直す。どんな感じにしたかったのか、どんな感じになったのかをふり返る。
- ・話し合うことを通して、自分の製作をふり返り、どんなイメージをもって製作したのかを確認したり、友人の作品を見ることで、自分とは違うイメージの面白さを感じたり、よさを感じたりする。

共感的な姿勢、安心できる雰囲気づくり【①意欲】

教師の共感的な姿勢によって、それぞれの感じ方が大切なものであることを実感させ、お互いに認め合う気持ちを育む。

振り返り

検証授業 2

対 象 第5学年1組 30名 授業者 昭島市立つじが丘南小学校 教諭 中村 理明

1 題材名

「針金アート」(A表現(2)・B鑑賞(1))

2 指導観

(1) 題材観

この題材は、針金という線材を使って、曲げたりつなげたりしながら、線の組み合わせや動きの面白さ、美しさなどを感じながら、表現を楽しむ活動である。材料のアルミ針金は、児童が思っている以上に軟らかく、触ったときの感触に、驚きや面白さが感じられる。

また、線材を曲げてみたり組み合わせを試みたりして生まれてきた形から、発想や構想を広げていくという活動には、児童が、対象の造形的な特徴を捉える場面や、そこから自分のイメージを広げていく場面が展開されていくため、一人一人の感性が十分に発揮されることが期待できる。新しい材料からの興味・関心や期待、自分がつくりだしたものの新しい見え方への驚きや面白さなど、児童が感性で捉えたものを大切に、そこから表現への思いや発想を膨らませていけるように指導する。

(2) 「一人一人の感性を大切にしたい図画工作の指導」を展開するための六つの視点

仮説に迫るために、本題材では次の具体的な手だてを用意する。

ア 児童の「①意欲」を引き出す材料

アルミ針金は切断や接着が容易なため、児童の思いや発想が瞬時に形なる。また、曲げたりつなげたりすることで、平面的にも立体的にも自由に好きな形をつくることができる。線の構成によって何か具体物に見える楽しさや、動く飾りや実際に生活で使えるものを考える楽しさなど、一人一人の興味や関心に応じて多様な活動が期待できる。

イ 一人一人の「②感覚」を引き出す学習計画

針金の感触などの面白さや道具を使って変形させる楽しさを十分に感じる時間を確保するとともに、それらの能動的な行為を通して、児童が対象の形や色、作品へのイメージなどを捉えていけるように学習計画を工夫する。

ウ 十分に材料と関わる「③空間」の工夫

安全性に配慮した活動範囲、材料の質や量の厳選、学び合いを意識した学習動線の設定など、児童が一人一人の思いに合わせて活動できる学習環境を工夫する。

エ 一人一人の発想力を働かせる「④プロセス」の工夫

線材を用いた立体表現を発想、構想していくためには、形の見え方やイメージの捉え方についても、段階的な指導が必要となる。線材を曲げて平面的なものを表す活動から、それらを組み合わせる立体的なものを通していく活動へと、順序立てて展開していくことで、児童はそれぞれの表現のよさや必要な技能を捉え、作品の新しい見え方やイメージを膨らませていくと考えた。

オ 児童の「⑤気付き」を促す

活動を通して感じたことや身に付けた技能によって膨らんだ表現への思いを、言葉やスケッチでワークシートに記録し、児童が自分の感性で捉えたものを意識化させる。教

師が児童の気付きを促す発問を工夫するだけでなく、このワークシートを活用し、児童同士の言語活動を充実させ、友人の様々な感じ方やイメージの多様性に気付かせる。

カ 「⑥技能」

一方的な技能の指導ではなく、試したり発見したり、児童が自分の興味関心に合わせて、必要な技能を習得していけるように学習計画を工夫する。技能を習得させるそれぞれの段階ごとに、児童がどんなことを感じとり、どんな思いを膨らませたのかを確かめさせ、一人一人が自分の表現に必要な技能として、主体的に獲得していけるように指導する。

3 題材の目標

針金のもつ線の組み合わせや動きの面白さ、美しさなどを感じるとともに、線材を曲げたり組み合わせたりして生まれてきた形から発想や構想を広げ、楽しみながら製作する。

4 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①針金アートに関心をもち、自分の思いをもって取り組もうとしている。 ②自分たちの作品のよさや美しさを自分の思いをもって味わおうとしている。	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けたり、形や色、用途や計画などを考えたりしている。	自分の表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法を選ぶなど工夫して表している。	感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉え、よさや美しさを感じ取っている。
学習活動に即した具体の評価規準	①針金アートに関心をもち、自分の思いをもって取り組もうとしている。 ②自分たちの作品のよさや美しさを自分の思いをもって味わおうとしている。	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを見付けたり、形や色、用途や計画などを考えたりしている。	自分の表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法を選ぶなど工夫して表している。	感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉え、よさや美しさを感じ取っている。

5 題材の指導計画（8時間扱い）

		学習活動・学習内容	評価規準
第1次	1時間	1. 材料や用具の安全で正しい扱い方を知る。 2. 針金を手で曲げて遊ぶ。 3. ペンチを使った針金の切り方や曲げ方を知る。 4. 一本の針金を曲げて、楽しいものをつくって遊ぶ。	ア①・ウ
第2次	1時間	1. 針金のつなげ方を知る。 2. 針金をつなげながら、つくりたいものをつくる。	ア①・イ・ウ・エ
第3次	1時間	1. 針金を組み合わせて立体的な骨組みをつくる。 2. つくったものを、変形させたり組み合わせたりして遊ぶ。 3. 自分が捉えた形やイメージをもとにつくりたいものを考える。	ア①・イ・ウ
第4次	1時間	1. 自分の思いに合わせて、曲げ方やつなげ方を工夫して、つくりたいものをつくる。 2. 友人と作品やワークシートを見合い、気付いたことを作品にいかす。	ア①②・イ・ウ・エ

6 時系列確認表 (形や色を捉えたり、自分のイメージをもつという視点に立って)

学習活動と児童の姿

《第1次》

材料のアルミ針金に興味・関心をもつ。

- ・アルミ針金を見たり、触って曲げたりして感触を楽しむ。



感じたことをつぶやきながら、自分としての目的意識をもって遊んでいた。数名の児童は、この時点で作りたいものをイメージし始めていた。

ペンチの正しい使い方を知る。

- ・針金をペンチで切ったり曲げたりして、ペンチの使い方やその楽しさを知る。
- ・直角に曲げる方法やラジオペンチを使って小さく曲げる方法を知る。

用具を用いることで、小さく曲げたり、直角に曲げたりできるなど、手だけでは難しいことができるようになるため、目的意識をもって何度も練習していた。

一本の針金で楽しいものをつくる。

- ・ペンチの使い方や曲げ方を工夫しながら、一本の針金でいろいろなものをつくって遊ぶ。



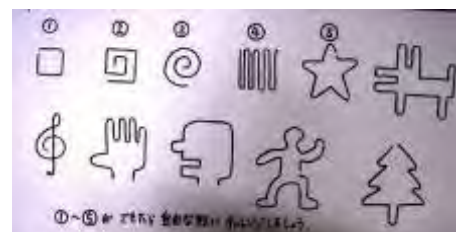
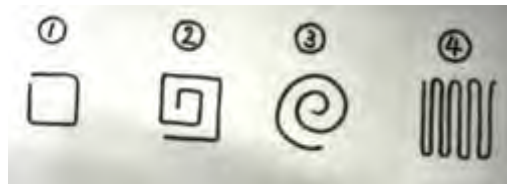
技能面での個人差に対応できる課題を用意したことで、自分で課題を選んで集中して取り組んでいた。自分の感覚でつかったことを教え合う姿も見られた。

教師の手だて

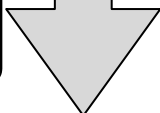
- アルミ針金の安全な扱い方や活動のルールに気付かせる。 **【③空間】**
- 針金の感触などの面白さを確かめる時間を十分に用意する。 **【②感覚】**
- 触ってみて感じたことや、曲げ方や伸ばし方の工夫について話し合わせる。 **【⑤気付き】**
- ペンチで曲げるよさや楽しさを感じる時間を十分に設定する。 **【④プロセス】**
- プロジェクターを使って教師の手元を観察させ、指を押し当てながら曲げることに気付かせる。 **【⑥技能】**



- いろいろな曲げ方に興味をもたせるために、練習題材を選んで取り組めるようにする。 **【①意欲】**



はさみ



・材料の特徴を生かして、つくりたいものを考える。



技能面で個人差が出やすい段階ではあったが、技能を習得した児童は、自分で楽しい形を考え出して活動していたことから、支援を必要とする児童への指導に十分当たることができた。また多くの児童に、つくったものに新しい形を「つなげたい」という思いが生まれ、次回へのめあてをもつことができた。

《第2次》

つなげ方を知りつくりたいものをつくる。

・輪と輪でつなぐ。締め付けてつぶす。ねじり合わせる。それぞれの方法を試し、その楽しさやよさを体験する。

練習の最初の段階では、「つなげる」という技能は、児童にとって難しい課題であった。しかし、何回か練習を繰り返す中で、ほとんどの児童が、教師の個別指導を必要とする前に、自分の感覚などを通してやり方を理解した。自分が習得した技能によって表現が膨らんでいくことに気づき、児童は意欲を高めていた。

自分がつくったもの、新しい形をつなげたり、作品同士をつなげたり、ぶら下げたりしながら、楽しいものをつくっていた。お互いの発想のよさを確かめ合う姿も見られた。



過程・活動

○いろいろな視点をもって取り組ませるために、できあがったものを、さらに手で曲げてみたりしながら、いろいろな方向から観察させる。【⑤気づき】

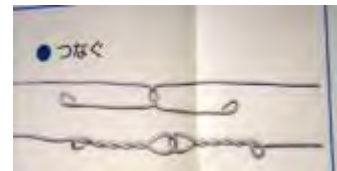
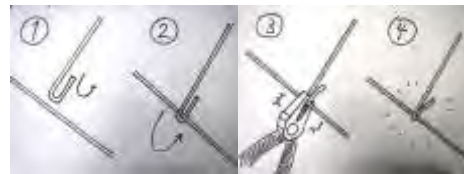
○自分が感じたことやつくってみたいものを確認し、自分の気づきを意識させるために、言葉にしたりスケッチしたりさせる。

【⑤気づき】

○できたものを見合いながら、感じたことを話し合うとともに、他につくってみたいものやそのために必要な技能について気付かせる。【⑤気づき】

○それぞれのつなぎ方のよさや面白さを十分に理解する時間を確保する。

【⑥技能・④プロセス】

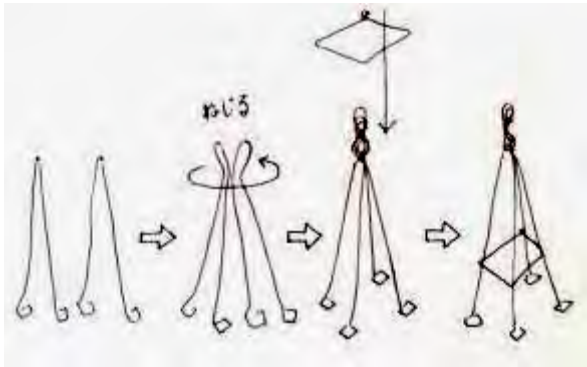


○児童の発想をより広げさせるために、つないでみて考えたことやいろいろなつなぎ方を生かしてやってみたいことを話し合わせる。【⑤気づき】

《第3次》

基本的な立体の骨組みのつくり方を知る。

- ・「ミニ東京タワー」をつくろう。(四角錐の骨組)



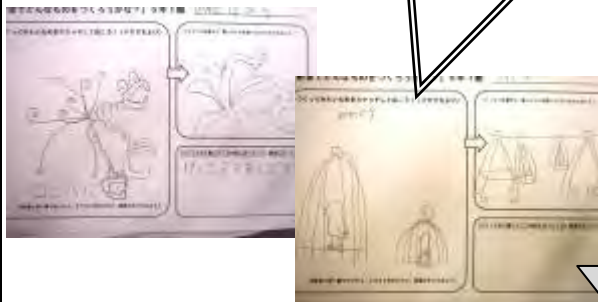
骨組を変形させていく様子を見ながら、つくりたいものをイメージする。

- ・作品例を見ながら、感じたことややってみたいことを話し合う。



いろいろな向きから見ることで、新しいイメージが生まれることを、お互いに確認し合いながら、楽しく思いを膨らませていた。

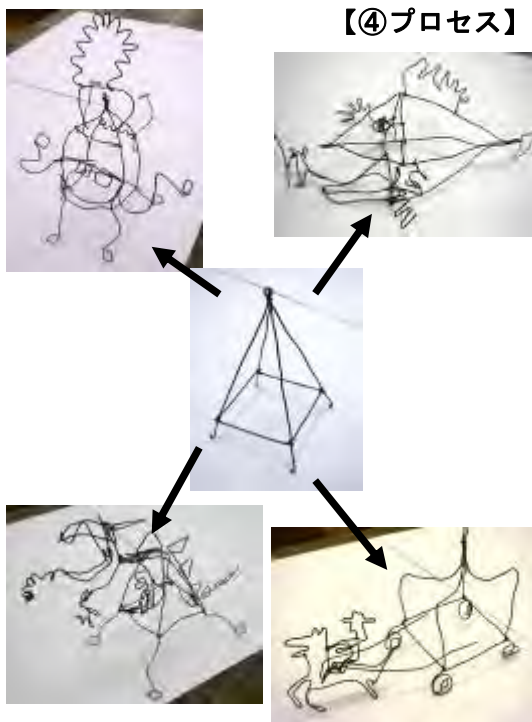
活動終了時まで、全児童が自分の思いを具体的に言葉やスケッチでワークシートに書くことができた。また、計画していることをお互いに話し合っていた。



過程・活動

- 切る、曲げる、伸ばす、つなげるというそれぞれの技能の習熟について、一人一人の様子やできあがったものから確認し、個別指導を行う。【⑥技能】
- 発展課題として、別の立体の骨組作品を紹介し、つくってみたいものに取り組ませる。【①意欲】
- 自分がつくった骨組や参考作品の造形的な特徴を観察しながら、イメージをもつ時間を十分に確保する。

【④プロセス】

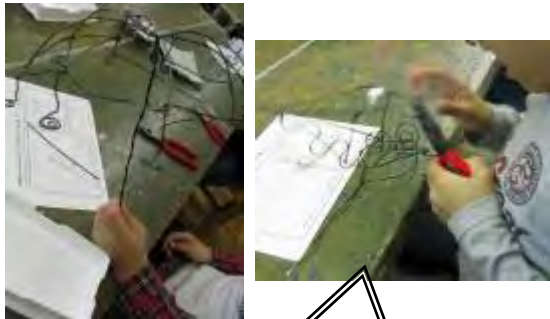


- 自分が作品から感じたことやつくりたいもののイメージを明確にさせるために、ワークシートに言葉やスケッチで記録させる。【⑤気付き】
- 変形させては、いろいろな向きから観察させ、新しい見方や感じ方を与える。【②感覚】
- 針金以外の材料を用いた表現を紹介し、自分がつくりたいものに合わせて、組み合わせたい他の材料についても考えさせる。【①意欲】

《第4次》

針金でつくりたいものをつくる。

- ・それぞれの構想に従って、つなぎ方や曲げ方、支え方、補強など工夫してつくる。



自分がつくりたいものに合わせて、一人一人がワークシートにそって具体的なめあてをもって活動していた。

- ・友人の考えや工夫を知り、自分の作品に生かす。



一人一人が自分のつくりたいものを具体的にスケッチしているため、教師だけではなく、児童同士がお互いの思いを理解しながら教え合うことができた。

できあがったものを楽しく見合いながら、お互いが感じたことを話し合う。



ワークシートに書かれていることを手掛かりに、友達の思いを感じながら楽しんで作品を見合っていた。

- 活動のめあてをもたせるために、ワークシートの内容や新しく取り入れようとしている材料を確かめ合わせる。

【①意欲】

- それぞれのつくりたいものの基本となる骨組を丈夫につくらせるために、つなぎ方や補強の仕方について個別に指導する。

【⑥技能】

- 自分がつくりたいものに合うような飾りの作り方や他の材料との組み合わせ方を考えさせる。

【⑤気付き】

- いろいろな形の面白さに気付かせるために、自分の作品をいろいろな向きから観察させるとともに、友人の作品の工夫に目を向けさせる。

【⑤気付き】

- 一人一人のイメージや表現の思いが、具体的に確かめ合えるように、作品に名前を付けて鑑賞させる。

【⑤気付き】

過程・活動・見つめる

IV 研究の成果

本研究の成果として、研究員全員が新しい学習指導要領の目標や内容等を確認しながら、図画工作科教育の在り方について理解を深め、感性の捉え方がより具体的になり、「一人一人の感性を大切にしたい図画工作の指導」に迫ることができた。

1 感性の捉え方

新学習指導要領に新たに示された「感性」を〔共通事項〕の視点で捉えていくことで、今まで曖昧だった解釈が明確になった。また、感性に着目して研究したことにより、児童一人一人の感じ方や表現への思いを大切にしたい指導の工夫を行うことができた。

2 主題に迫るための六つの視点の設定

二つの検証授業から、「一人一人の感性を大切にしたい図画工作の指導」を作るための六つの視点が、児童の主体的な造形的な創造活動を促すために有効であることが分かり、図画工作科の学習指導の改善・充実に向けて重視するポイントが明確になった。

3 時系列確認表の作成

図画工作科の学習活動において、児童一人一人に何が起きているのか、どのような表現への思いや気もちの流れがあるのかを把握することが必要であることから作成した時系列確認表が、授業後の振り返りや考察に極めて有効であった。

V 今後の課題

本研究の今後の課題として、次の4点が挙げられる。図画工作科の目標を念頭に、造形的な創造活動をする児童への理解を深めながら継続的に研究を進めていきたい。

1 具体的な手だての吟味

〔共通事項〕を視点として指導と評価を行う際に、研究主題に迫るための具体的な手だてを吟味し精選する必要がある。また、個に応じた指導という視点に絞って、具体的な手だてを考える方向性も考えられた。

2 創造的な技能と表現方法の提示について

二つの検証授業の中で、ミラーシートという素材の魅力からの児童の気付きを大切にしたい指導や、針金の扱い方について段階的にスモールステップを踏んだ指導などがあったが、その提示が児童一人一人の感性にどのような働きかけをしていたのか、さらに考察を重ねて研究を深める必要がある。

3 評価について

評価の場面や方法、個人の活動の確認などについてさらに研究を深める必要がある。今後、感性を働かせている児童の姿を、より具体的に評価する方法を研究・提案していきたい。

平成22年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 図 画 工 作

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
大田区	赤 松 小 学 校	主任教諭	◎ 笠 雷太
杉並区	荻 窪 小 学 校	主任教諭	金丸 結実
国分寺市	第 一 小 学 校	主任教諭	○ 雨宮 玄
板橋区	板 橋 第 四 小 学 校	主任教諭	平本 かおり
昭島市	つ つ じ が 丘 南 小 学 校	教 諭	中村 理明

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
指導主事 松永 かおり

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
小学校 図画工作

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕
平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451